

平成 30 年公益社団法人埼玉県診療放射線技師会新春の集い開催報告

総務担当常務理事 城處 洋輔

平成 30 年 1 月 12 日（金）、恒例となった「平成 30 年新春の集い」が、大宮サンパレス・グランツにて開催されました。毎年この時期、新年のあいさつや顔合わせ、また情報交換の場として多くの会員、賛助会員の皆さまにご参加いただいております。今回の出席者は 93 人、このうち埼玉県診療放射線技師会の新しい会員となった 21 人の方々にもご出席いただきました。

田中会長より新年のあいさつをいただき、しばらくご歓談した後に平成 29 年の表彰者が紹介され、代表して（財）日本公衆衛生協会会長表彰を受賞された宮澤浩治氏にお言葉を頂戴しました。

雰囲気慣れてきたころ、今回は趣向を変えて特別ゲストをお呼びし、新入会員の紹介が行われました。新入会員の方々からは、自己紹介を兼ねて将来の豊富など、一人一人お話しいただきました。また日ごろお世話になっております賛助会員の皆さまにも短い時間ではありますが、一緒にお言葉を頂戴しました。

終始和やかな雰囲気のなかあっという間の 2 時間でした。

最後にお忙しい中、ご参加いただきました会員、賛助会員の皆さまに心より感謝申し上げますとともに、皆さまのご協力を賜り、執行部一同、当会の運営に努力してまいります。

今後ともよろしくお願い致します。



会場風景



新入会員紹介

平成 29 年度第 16 回胸部認定試験開催報告

学術委員 滝口 泰徳

平成 30 年 1 月 27 日（土）に、第 16 回胸部認定試験が開催された。

認定試験の受験者数は 20 人であった。今年度より開催場所を埼玉県診療放射線技師会センターへ移し、読影試験の方式を従来のフィルムから、高精細モニタを用いた読影試験へと変更した。高精細モニタを受験者 1 人に対して、1 台用意して 20 症例を読影していただいた。読影方式の変更は、フィルムレス化が急速に進み、ほとんどの施設でモニタ診断されている現状を踏まえて、数年前より検討していたが、今回、高精細モニタを準備することができたので、早速、今年度より変更することになった。従来のフィルム方式の「正面から見るができない」、「近くで見るができない」などの問題点は改善されたが、今回の高精細モニタ方式では、「拡大表示や濃度変更をしたい」、「制限時間内に自由に読影したい」「モニタの輝度・色度が異なっていた」など、受験者からの意見があり、今後の課題とさせていただきたい。

最後に認定試験を行うにあたり、問題作成にご協力いただいた講師の先生方、また受験いただいた皆さまにこの場をお借りしてお礼を申し上げる。

【胸部認定】

A 認定：該当者なし

B 認定：岡藤 由香（上尾中央総合病院）
 西田 衣里（済生会川口総合病院）
 阿部 聡（岡病院）
 戸澤 僚太（済生会川口総合病院）
 茂木 大哉（上尾中央総合病院）
 本間 雅人（熊谷生協病院）
 野口 洋一（上尾中央総合病院）

認定試験を合格した方々には、各施設において、撮影技術向上と精度管理の普及をお願いするとともに、放射線業務の質の向上に努めていただきたいと思います。



平成 29 年度第 9 回 CT 認定試験 開催報告

学術理事 寺澤 和晶

平成 30 年 2 月 16 日（金）に、第 9 回 CT 認定試験が浦和コミュニティーセンターの IT 研修室で開催され、他県からの参加者も含め 14 人が受験された。例年では各自ノート PC を持参していたが、読影試験における Viewer ソフトのトラブルや読影環境の違いを改善するため、今年度は備え付けの PC を利用して開催した。読影試験においては上記問題は改善されたが、物理特性試験では自身の PC におけるエクセルや解析シートを使用できなかったことで、解析に時間を要してしまうデメリットも見受けられた。また、平日開催ということで、遠方から受験される方には業務調整などが必要となることも含め、次年度の課題として改善していきたい。当日のプログラムを以下に記す。

記

日 時：平成 30 年 2 月 16 日（金）
会 場：浦和コミュニティーセンター 10 階 IT 研修室

プログラム：18：15～18：30 受付
 18：30～19：30 筆記試験
 19：30～20：30 読影試験
 20：30～21：00 物理特性試験



読影試験

平成 29 年度第 17 回上部消化管検査認定試験 開催報告

常務理事 今出 克利

平成 30 年 2 月 18 日（日）に、第 17 回上部消化管検査認定試験が開催された。

認定試験の受験者人数は 6 人であった。今年度より、開催場所を埼玉県診療放射線技師会センターへ移動し、読影試験をシャーカステン+フィルム方式から、高精細モニタを用いた方式に変更した。試験項目は、筆記試験、読影試験、画像評価の 3 項目となり、画像評価については、普通胃と横胃の評価を行った。

急速なデジタル化の波が押し寄せ、読影試験の在り方について数年前より協議していたが、今年度より、モニタ診断に切り替えることになった。DICOM ビューアソフトのアポロビューライトを使用し、画像の拡大や縮小、濃度の調整など行うことが可能となり、受験生からも非常に好評であった。

上部消化管検査認定試験では、再試験を受けられる方が多く、前回の試験より良い成績となる場合が見受けられる。中には画像評価であまり良くなかった受験生が、次年度には飛躍的に画像が良くなった場合もあり、そんな時は、講習会を開催していて非常にうれしく感じる。胃がん X 線検診を取り巻く環境は厳しく、減少傾向にあり、われわれ、診療放射線技師がしっかりと精度管理することが大切である。今後も開催・企画しますので、ぜひ、ご参加いただければ幸いです。

【上部消化管検査認定者】

A 認定：該当者なし

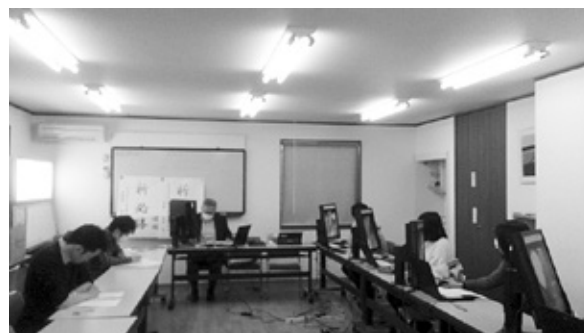
B 認定：高瀬 正人（埼玉医科大学総合医療センター）

山口 恵利（西大宮病院）

竹内 直美（財団法人啓明会中島病院）

浅野 友彦（大宮双愛病院）

認定試験を合格者した方々には、各施設において撮影技術向上と精度管理の普及をお願いするとともに、放射線業務の質の向上に努めていただきたいと思います。



第 32 回埼玉県診療放射線技師学術大会開催報告

大会長 田中 宏
実行委員長 今出 克利

平成 30 年 3 月 4 日（日）に、第 32 回埼玉県診療放射線技師学術大会が大宮ソニックシティで第 1 会場を国際会議室、第 2、3 会場は市民ホールを使用して開催された。参加人数は、257 人（会員（埼玉）179 人、会員（県外）10 人、非会員 15 人、学生 9 人、賛助会員 42 人）であった。

大会テーマは『業務拡大から 7 年、そしてこれから～』とした。平成 22 年付の厚生労働省通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」には、診療放射線技師を積極的に活用する業務として「画像診断等における読影の補助を行うこと」「放射線検査等に関する説明・相談を行うこと」が明記され、また平成 27 年には、診療放射線技師法の一部改定が行われ、CT・MRI 検査等の造影剤注入後の抜針・止血や、下部消化管検査の実施、画像誘導放射線治療時の腸内ガスの吸引のためのカテーテル挿入の業務内容の拡大が行われた。そのため、法改正に伴う統一講習会が開催されているが、埼玉県の受講率は関東近県と比較しても低率であり、本学術大会を通じて受講率向上につながれば幸いです。

大会内容は、一般演題 29 演題・学生演題 6 演題、シンポジウム「業務拡大から 7 年、そしてこれから」、学術特別企画「国際学会で見た最新の放射線技術と気になるトピックス」、学術委員企画「業務拡大で求められる救急医療の知識」を行った。その他、リーディングコーナー、機器展示の参加企業は 21 社であった。市民公開講座は、「3D 画像による人体解剖学体験」と題して、メーカーにご協力頂きワークショップを用いて、小中学生向けに 3D 画像作成や人体解剖学を学習するイベントを行った。特別講演は、公益社団法人日本診療放射線技師会の熊代正行副会長に「業務拡大の現状と課題、そしてこれから」をご講演いただき、またランチョンセミナーには、公益社団法人「難病の子どもとその家族へ夢を」の代表である大住力氏をお招きして、「あなたの役割は何ですか？ディズニーと難病を患う家族が教えてくれたこと」をご講演いただいた。

平成 30 年度の埼玉県診療放射線技師学術大会は、第 35 回日本診療放射線技師学術大会を平成 31 年 9 月に大宮ソニックシティで開催するため延期となります。ぜひ、今から演題発表の準備をしていただき、全国大会にエントリーしてみたいかでしょうか。

【リーディングコーナー 成績優秀者】

胸部部門：白石 広子（熊谷総合病院）

MMG 部門：折原あゆみ（イーストメディカルクリニック）

MDL 部門：山村 慎二（西大宮病院）

CT 部門：茂木 雅和（彩の国大宮メディカルセンター）

MRI 部門：丸 武史（済生会川口総合病院）

【最優秀演題賞 一般演題部門】

5. ノイズ低減処理における有用性の基礎的検討

済生会川口総合病院 ○井上友貴、土田拓治、森一也、戸澤僚太、
内藤完大、富田博信

【優秀演題賞 一般演題部門】

28. 64列 MDCT 高速撮影における撮影条件の組み合わせが画質に与える影響

埼玉医科大学総合医療センター ○千葉佑香里、白石健吾、河田諠人、松澤浩紀、
栗原良樹、中根 淳

12. 画像任意回転機能の臨床使用への検討

上尾中央総合病院 ○樋口誠一、堀夢子、飯泉隼、内田瑛基、藤巻武義、滝口泰徳

【優秀演題賞 学生演題部門】

32. 低 MU ビーム照射と出力変動について

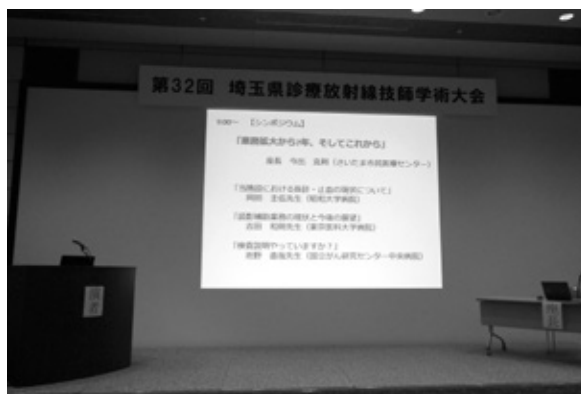
日本医療科学大学 保健医療学部 診療放射線学科 ○白鳥洋子、佐藤洋、桑山潤



会場



受付





田中会長



堀江副会長



富田副会長



国際会議室



市民公開講座



市民公開講座



リーディングコーナー



日本診療放射線技師会 熊代副会長



演題優秀賞受賞者



実行委員

平成 29 年度埼玉県診療放射線技師会主催学術講演会報告

埼玉県診療放射線技師会副会長 富田 博信

平成 30 年 3 月 21 日（水）13 時～18 時（懇親会 18 時～）、大宮サンパレスで平成 29 年度埼玉県診療放射線技師会主催学術講演会を開催した。当日はあいにくの天気であったが、県内外より 63 人（会員 56 人、非会員 7 人）の参加があり盛会に終了した。今回の講演会テーマは「手術画像支援を、撮影技術、造影技術、および被ばく線量評価を踏まえ日々の業務に活かす！」という明日から役立つような、内容で企画、プログラムした。

セッションⅠでは、法改正と認定制度の概説、業務拡大に伴う統一講習会と生涯学習の概略、セッションⅡでは造影の基礎と 3D 画像作成のための元画像の重要性について本会理事の、富田、城處、寺澤、中根より講義した。セッションⅢでは、教育講演として、「臨床に役立つ CT 検査被ばくの知識」と題し、千葉海浜病院 高木卓氏よりご講演をいただいた。最後のセッションⅣでは、特別講演に「手術支援を考慮した頭部領域の撮影と画像処理」として、基礎的な手術支援画像の知識から、高度な処理法など多岐にわたり、札幌医科大学病院 平野透氏よりご講演いただいた。内容は 1 日を通して非常に濃い内容であり、ご参加の皆さまには、ご満足いただけたのではないかと思います。今回の企画は、会員への還元および非会員の入会促進も想定し、参加費無料で設定した。今後も県内診療放射線技師にとって、有益な学術講演会を、企画してまいります。



千葉海浜病院 高木卓氏



札幌医科大学病院 平野透氏



質疑風景

平成 29 年度受賞者

受賞おめでとうございます。(敬称略)

平成 29 年春 叙勲瑞宝双光章受賞

石川 昇

保健衛生知事表彰

吉村 保幸

公衆衛生功労知事表彰

宮澤 浩治

萩元 孝

公衆衛生事業功労者（財）日本公衆衛生協会会長表彰

諸澄 邦彦

新井 均

ご寄付お礼

ありがとうございました。

山田整形外科胃腸科肛門科 元放射線科 技師長

社団法人埼玉県放射線技師会 元常任理事

石川 昇名誉会員より10万円のご寄付を頂きました。

厚くお礼を申し上げます。